

「入社後の成長の幅が大きい」と評価

企業の声

電気設備工事、配電盤製造業の河野電気（大分市田室町）は毎年、新卒の高校生を採用している。採用担当の赤野史彦業務部長（45）は「純粋で、努力する。入社後の成長の幅が大きい」と高卒生を評価。

今年4月の新入社員は6人。このうち5人が高卒生だ。入社後、工場や事業所を回ったり、座学での研修を経て、6月末に配属先が

決まる。

配属先と一緒に発表されるのが、新入社員のお世話役となる「ピッグブラー」。所属部署で年齢が近い社員が“お兄さん”、“お姉さん”役になり3カ月間、新入社員と交換日記をする。仕事からメンタル面までノートを介して語り合い、不安や悩みに寄り添いながらサポートする。



4月に河野電気に就職し、研修を受ける新入社員6人

全国的に高卒者の早期離職が課題となる中、同社では2017年以降、入社3年以内の離職者は出ていない。「先輩が積極的に声を掛けるように心掛けている。関係づくりがうまくいっているのではないか」と赤野部長。

業務に必要な資格を高校で取得している点も高卒者の魅力の一つ。高卒者には第2種電気工事士の取得を応募条件にしているが、最近では上級の第1種を持って応募する生徒もいるという。入社後も資格取得の勉強を続けていかなければならぬ業種。前向きに取り組む姿勢や、高校の学習で身に付けた手先の器用さやきちょうめんさが武器になるという。

大分流通業務団地に移転・新築した配電盤製造の新工場が、7月から稼働する。新型コロナウィルス感染拡大の影響で採用活動を縮小する企業もある中「今年はチャンス」と同社。「新工場の稼働で事業規模が拡大する。今年は10人単位で採用したい」と意気込んでいる。



河野電気業務部長
赤野史彦さん